

養生片仔癩の研究内容：

<実例報告>

CCL4に起因する肝臓毒性における「養生片仔癩」の効果について： 実験室及び生体試験結果について

第37回日本肝癌研究会・第4回国際肝硬変肝癌シンポジウム
平成13年6月7～9日 海峡メッセ下関

ヨーロッパ肝臓研究学会
平成13年10月12～13日 イタリア フローレンス

F.マロタ, A.ローグ, H.アンゾロヴィック, M.原田, G.M.イデオ, K.梶川,
N.矢内原, G.プリンセス, G.イデオ

肝一消化器部、S.ジュゼッペ病院(イタリア ミラノ)、
 α - Ω テクノラボ(スイス ジュネーブ)、MCH 病院、MCK 病院(東京)、矢内原研究所(静岡)

最近、選択的な加工方法によって「養生片仔癩」(東京に本社のある株式会社協通事業社製)という漢方の組成が発見され、初期の臨床試験によりHCV-陽性慢性肝炎患者のトランスアミナーゼのレベルを顕著に低下させることが分かった。

[目的]

この研究の目的は「養生片仔癩」のCCL4誘発肝臓毒性に対する効果を検討した。
ウィスター系ラットを以下の3群に分けた。

[方法]

- A) オリーブ油(1:1 v/v)の中にCCL4を体重の0.1ml/100gを1日2回、4週間皮下注射した。
- B) Aに加えて5%グルコースに溶解した「養生片仔癩」を50mg/kgを経口投与する。
- C) Bと同様だがCCL4の最初の注射から1週間後に「養生片仔癩」を投与した。

[結果]

対照群と比較し、A群では肝臓のGSH(>45%, p<0.001)とGSSG(p<0.01)が著しく低下し、トランスアミナーゼの増加(>15-fold, p<0.001)とともに肝臓の湿重量も低下した(p<0.001)。一方、B群及びC群ではトランスアミナーゼの軽度の上昇と肝臓壊死炎症値(p<0.05 vs. A)を示した。

養生片仔癩の研究内容：

A群にはY蛋白とG S T活性の30%以上の減少($p < 0.01$ vs 対照群)が見られたが「養生片仔癩」で正常値に戻った ($p < 0.05$ vs A)。肝細胞培養ではわずか 10 $\mu\text{g/ml}$ の「養生片仔癩」でシリマリン 100 $\mu\text{g/ml}$ と同程度に CCL4 肝細胞損傷を緩和した ($p < 0.05$)。一方 K-17.22 100 $\mu\text{g/ml}$ はシリマリン 100 $\mu\text{g/ml}$ やグリシルリジン 10 $\mu\text{g/ml}$ と比べてより強い保護作用を示した ($p < 0.05$)。

顕微鏡的には未処理動物 ($P < 0.001$ v s 健康な標準試験体) の肝臓障害による壊死性炎症のスコアは一部にしか見られず、K-17.22. ($P < 0.05$ v s 未処理ラット) によって顕著に改善されていた。

平行して行われた肝細胞培養による実験では K-17.22. の 10 $\mu\text{g/ml}$ の薄い希釈液では CCL 肝炎障害 ($P < 0.05$) をシリマリン 100 $\mu\text{g/ml}$ に比べて顕著に和らげることが出来た。100 $\mu\text{g/ml}$ はシリマリン 100 $\mu\text{g/ml}$ にもグリシリン 10 $\mu\text{g/ml}$ ($P < 0.05$) のどちらにもより効果的と証明されている。

[結論]

これらの予備的データは CCL4 誘発肝損傷において「養生片仔癩」は GSH 低下及び共役肝臓 GSH/GSSG 酸化還元系に対して強い節約型的、持続的な効果 (予防的あるいは治療的に) を持つことを示唆した。